

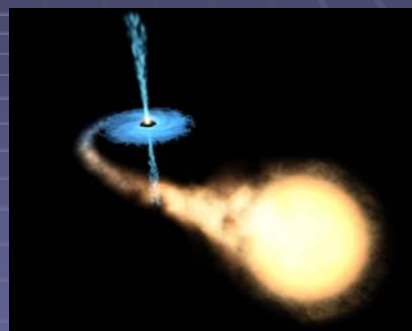
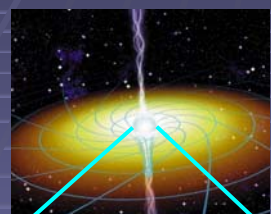
宇宙科学II (電波天文学)
第12回
(最終回)

ブラックホール(II)

前回の復習

ブラックホールの想像図

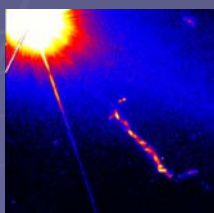
- 銀河中心ブラックホール
- ・ 連星系ブラックホール



ブラックホールは通常、ブラックホール、円盤、ジェットからなる

AGN : 活動銀河中心核

- AGN (Active Galactic Nuclei)
= 活動銀河中心核
銀河中心の巨大ブラックホールのうち活動的に明るく輝いているものの総称

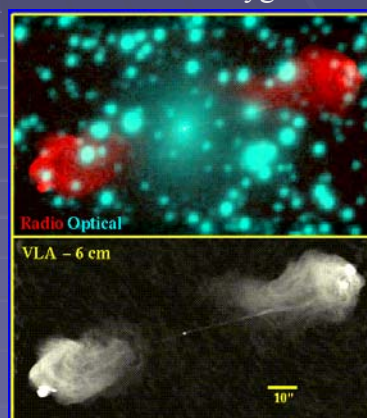


ブラックホールからのジェット

電波銀河とジェット

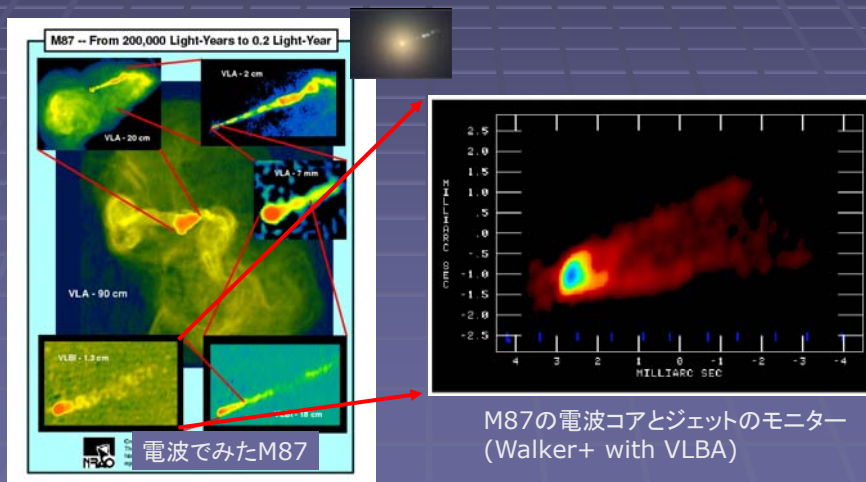
- AGNから光速に近い速度でジェットが放出され、シンクロトン放射で明るく輝く。
- BHから出る電波ジェットは銀河よりも大きな広がりを持つこともある。(電波ローブ)

電波銀河 Cyg-A



M87の電波ジェット

- M87: おとめ座銀河団中の巨大楕円銀河



AGNから出るジェット

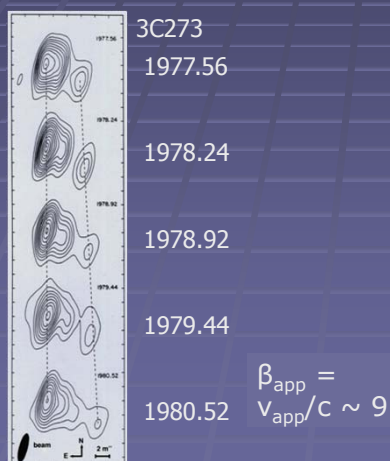
- 中心にあるブラックホールからジェットが出ている様子が多数見つかった。
- ジェットの速度は光速の90%に達するものもある

これらの高速ジェットもブラックホールに関連していると考えられる

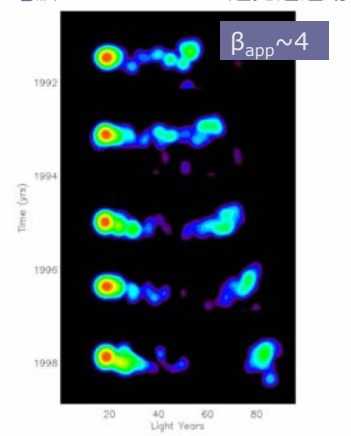


ジェットの超光速運動

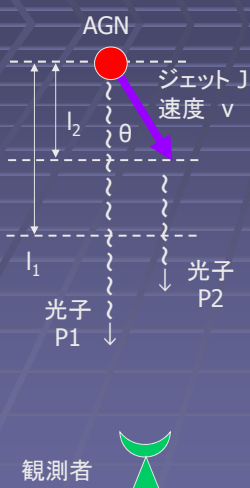
- VLBIでミリ秒角スケールまでジェットを分解してモニターすると、ジェットの見かけの運動速度が光速を超えることがある



電波でみた3C279の超光速運動



ジェットの超光速運動 (2)



- 時刻 0 にAGNから出た光子P1, ジェット J, および時刻 t にジェット J から出た光子P2を考える
- P1, P2が観測者に届く際の時間差は $\Delta t = (l_1 - l_2)/c = (1 - v/c \cos\theta) t$
- 時間間隔 t の間のジェットの見かけの動きは $\Delta x = v t \sin\theta$

ジェットの超光速運動 (3)

- ジェットの見かけの速度

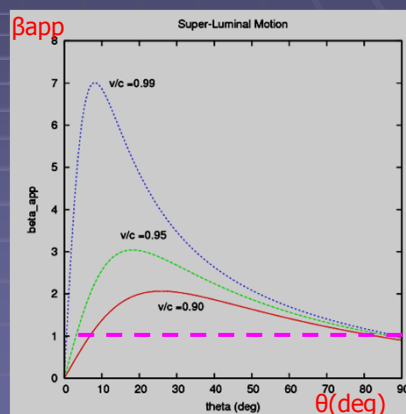
$$v_{app} = \Delta x / \Delta t$$

$$\begin{aligned} \beta_{app} &= v_{app} / c \\ &= \beta \sin \theta / (1 - \beta \cos \theta) \\ (\beta &= v/c) \end{aligned}$$

- β_{app} は $\beta \sim 1$, $\theta \ll 1$ のとき、1よりも大きくなる。

超光速運動 ($\beta_{app} > 1$) は、ジェットが光速に近い速さまで加速された証拠。

ジェットの見かけの運動速度と
ジェットを見込む角の関係



ジェットの速度とBH

- AGNジェットの $\beta \sim 1$ の意味

ジェットのような質量放出現象では、その放出速度は中心天体の脱出速度程度となる(オーダー評価)

理由1) 脱出速度に満たない物質は出てこれない

理由2) 脱出速度を超えた物質はすぐに重力を振り切ってしまうので、脱出速度よりもはるかに大きな速度まで加速するのは難しい

- 光速に近いジェット($\beta \sim 1$)の存在は、中心天体がブラックホールであることの間接的な証拠(BH表面の脱出速度は光速)

ジェット研究の課題

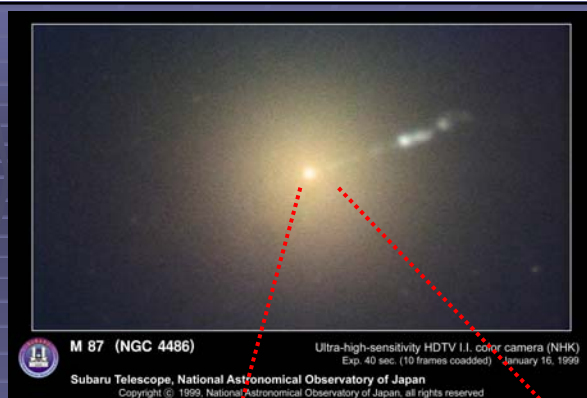
- どうやって光速近くまで加速するか
- どうやって細く絞るか

(輻射圧、磁場 etc ??)

これらに答えるには、ジェットの根元の詳細な観測が必要(BH近傍を分解する必要がある)

最近の話題： 近傍銀河M87 ブラックホール

すばる望遠鏡が
見たM87銀河

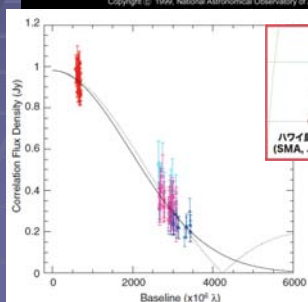


波長7 mmの電波写真



波長15 cmの電波写真

sub-mm VLBIがブラックホールに肉薄!



シュバルツシルト半径の
5.5倍の構造を検出

ブラックホール極く近傍の
ジェットの根元と考えられる
Doeleman+(2012), Science

降着円盤とBH

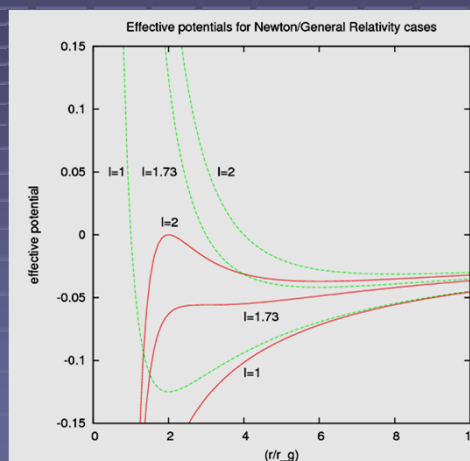
BH近傍の粒子の運動

- BH近傍で安定な円軌道が存在しない
- シュバルツシルト場の場合

$$R = 3 R_g$$

が最内安定円軌道
(Innermost Stable
Circular Orbit)

降着円盤は真ん中に穴が
あいたドーナツ状になる



ニュートンの／相対論的な場合の実効ポテンシャル

標準降着円盤

- ガスの降着によって解放するエネルギーを局所的な黒体輻射で放射する円盤

- 円盤の温度(オーダー評価)

AGNの明るさ $L \sim GM \, dM/dt / 2r$

円盤の大きさをRとし、平均温度Tの黒体輻射とすると、

$$L \sim 2 \times \pi R^2 \times \sigma T^4$$

- これより、 $T \sim (GM \, dM/dt / 4\pi\sigma R^3)^{1/4}$

標準降着円盤 (2)

- 典型的なAGNのパラメーター

$$M \sim 3 \times 10^7 M_{\text{sun}}, \quad dM/dt \sim 1 M_{\text{sun}} / \text{yr}$$

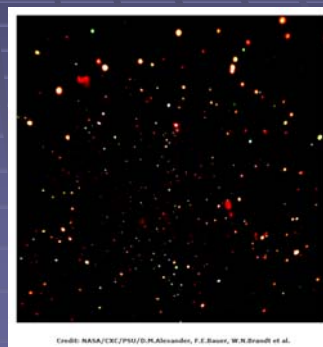
$$R \sim 3 R_g$$

を用いると、

$$T \sim 2 \times 10^5 \text{ K}$$

→ 紫外線~X線で輝く

(実際のAGNからの放射は
熱放射だけでなく、非熱的な
成分の寄与も大きい)

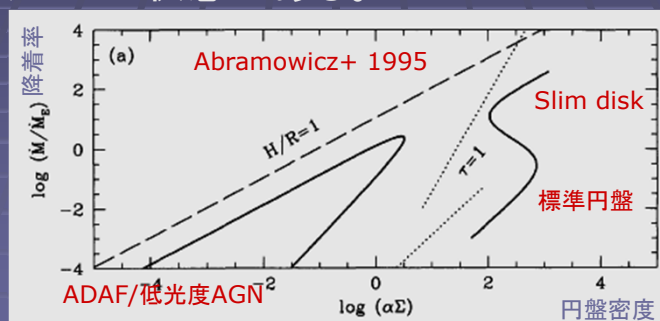


Credit: NASA/CXC/PSO/D.M.Alexander, F.E.Bauer, W.N.Brandt et al.

X線衛星Chandraで見た遠方銀河。
明るいAGNが選択的に多数観測される。

降着円盤

- BH周囲の降着円盤には物理状態の異なるいくつかの状態がある。



VLBIで円盤を直接観測できる可能性があるのはADAF円盤
(重力エネルギーを放射で解放しないため、きわめて高温になる)

低光度AGN

- 活動性が低い(暗い)AGNは、標準円盤では説明できない。
 - もっとも顕著な例は、銀河系中心のBHであるSgr A*
 - $M \sim 3 \times 10^6 M_{\text{sun}}$, $L \sim 2.5 \times 10^3 L_{\text{sun}}$
 - $dM/dt \sim 2 \times 10^{-9} M_{\text{sun}} / \text{yr}$, $R \sim 3 R_g$
 - を用いると、
 - $T \sim 7000 \text{ K}$
- 可視光で明るい天体のはず(実際は見えない)

低光度AGNとBH

- Sgr A*の場合、周囲のガスの質量から、最低でも
 - $dM/dt \sim 10^{-6} M_{\text{sun}}$
 - 程度と期待される。この場合、
 - $L \sim 10^6 L_{\text{sun}}$
 - となり、観測値を大きく上回る。このような放射が外部に出ないためには、降着円盤のガスの放射効率が悪く、重力エネルギーの解放によって得られたエネルギーを熱として蓄えたまま、ブラックホールに落ちていく必要がある
- Sgr A*には通常为天体のような表面はなく、ブラックホールであることを示唆する
- このタイプのAGNは、光度が低く温度が極めて高い($T \sim 10^9$ - 10^{10} K)円盤を持つ > VLBIの観測対象

ブラックホールを見る

ブラックホールは見える？

- ブラックホール自身は暗い(はず)
- ブラックホールに落ち込むガスが回転しながら高温で明るく輝くので、それを背景に「黒い穴」が見えると期待される。



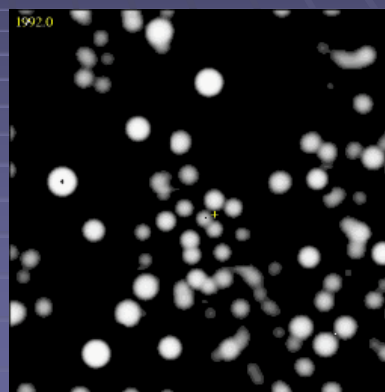
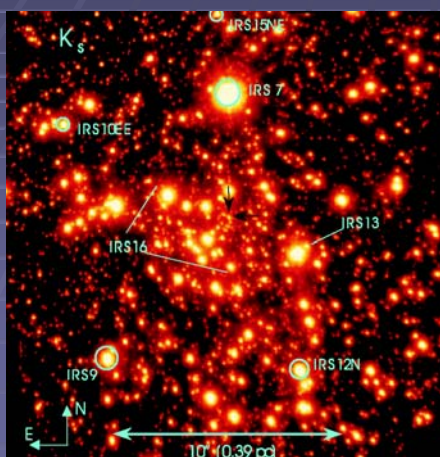
Fukue et al. (1989)

銀河系中心のブラックホールは「黒い穴」の見た目が最も大きい

直径~30マイクロ秒角
(波長の短い電波干渉計なら分解可能)

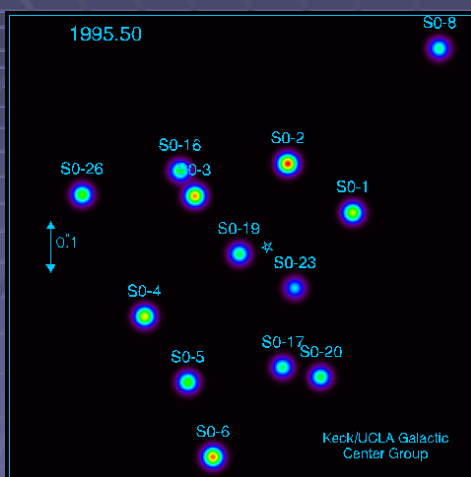
Sgr A*周囲の星の運動

- 銀河系中心部の赤外線によるモニター観測

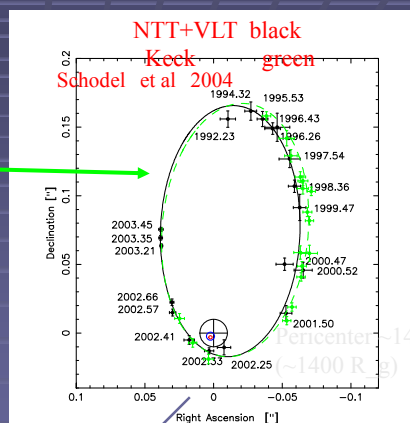


Motion of stars (Genzel et al.)

Sgr A*に最も近い星の軌道



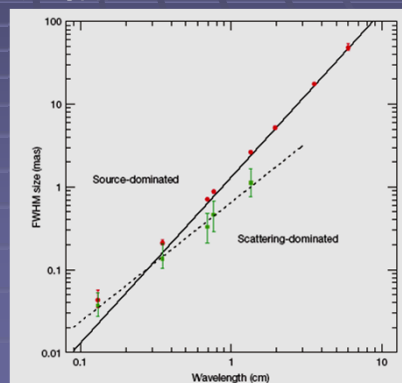
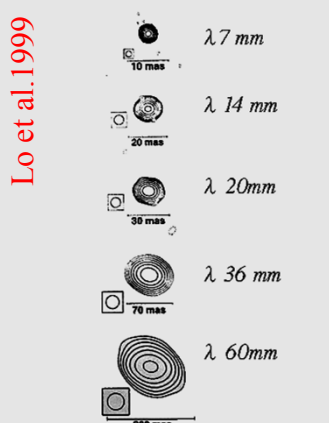
Ghez et al. 0.8'' 0.032 pc



Most likely mass of the BH
 $\sim 4 \times 10^6$ solar mass

サブミリ波VLBIの重要性

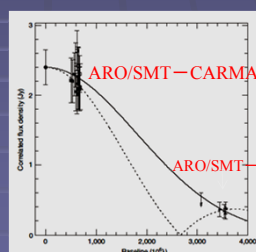
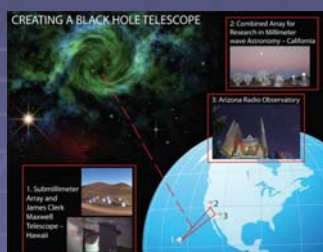
- 長い波長の電波は、プラズマによる散乱を受けて、像がぼやける
- 短い波長が有利 ($\theta \sim \lambda/D$ で分解能も向上)



Scatter effect $\propto \lambda^2$

230GHzでのSgr A*観測

- Sgr A*: 見かけが最も大きいBH
- その分解にはサブミリ波VLBIが有効
- 1) shorter λ , higher resolution
- 2) less interstellar scattering

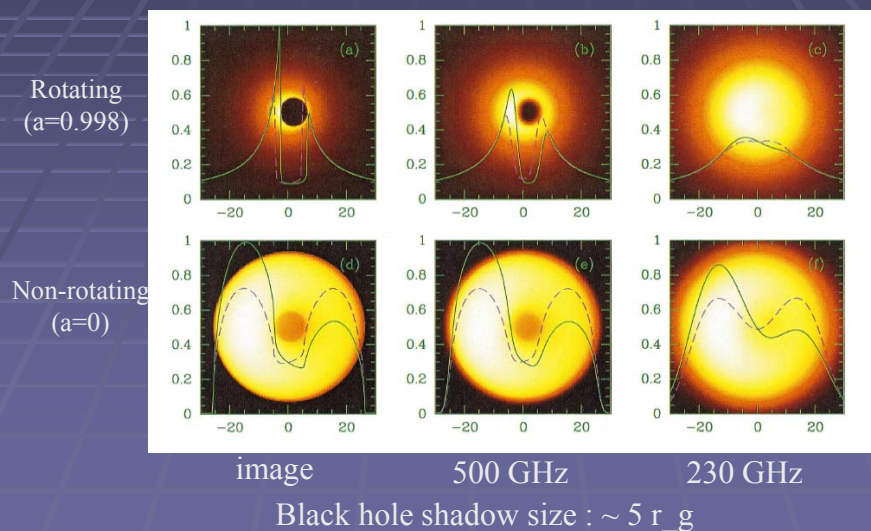


Doeleman et al.
2008 in Nature

Doeleman et al.(2008)は1.3mmでSgr A*の構造を
~40 μ 秒まで分解。「黒い穴」の分解まであと一歩?

Sgr A* ブラックホールはサブミリ波で見える？

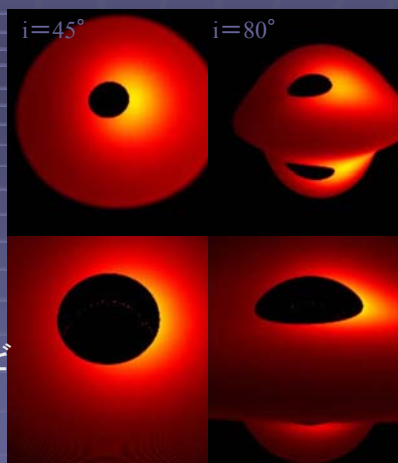
- Simulated image by Falcke et al. 2000



Sgr A*ブラックホールのシュミレーション

Takahashi et al.(2004)

- ブラックホールのパラメーターによってさまざまなイメージが期待される
- ブラックホール質量、スピン、降着円盤の傾きなど



ブラックホールシャドウ >

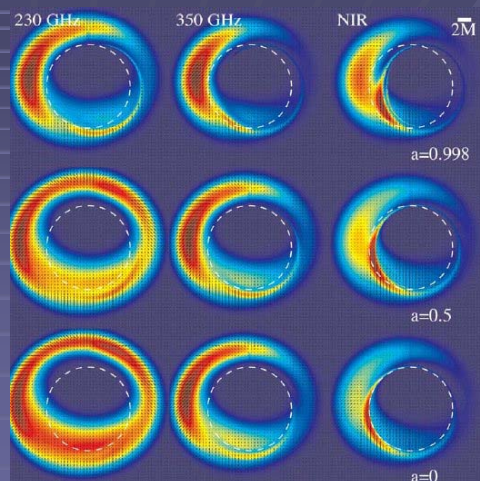
ブラックホール存在の証拠であり、また
ブラックホールのパラメーターを決める重要情報

Sgr A*ブラックホールのシュミレーション

Broderick (2006)

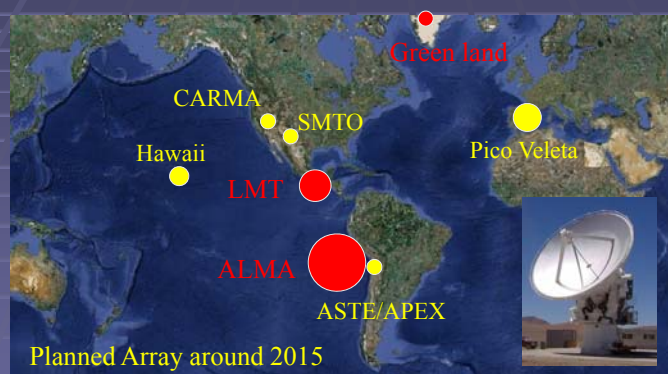
パラメーターによる
違いや周波数による
違いも

実際の観測ではどう
なっている？
(今後の課題)



Event Horizon Telescope

ALMAを含めた次世代のミリ波サブミリ波VLBIネットワーク



目的はブラックホールの直接撮像 !

期待が高まるALMAによるVLBI

SKY & TELESCOPE(2012年2月号)



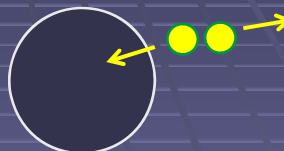
2015年～16年には観測開始！?

ブラックホールからの黒体放射
(ホーキング放射)

ブラックホールからの黒体放射

- ホーキングの量子論的考察

量子揺らぎによってブラックホール近傍で生成するエネルギーが正負の粒子対のうち、負のものがBHにトラップされ、正のものがBHから遠ざかることで等価的に放射がでる。



詳しい計算によるとブラックホールは黒体放射をする
(ホーキング放射)

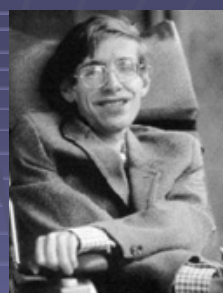
> 対応する温度を持つ

$$T = \frac{\hbar c^3}{8\pi kGM}$$

スティーブン ホーキング

- Stephen Hawking
車椅子の科学者として有名

ケンブリッジ大学
第17代ルーカス記念講座教授
(1663年から続く伝統ある職、
第2代目はニュートン)



(1942 -)

ブラックホールの理論的研究の第一人者
ブラックホールの熱力学、ホーキング放射など。

ブラックホールの温度の導出

- 不確定性関係による大ざっぱな導出

$$\text{不確定性関係} \quad \Delta E \Delta t \sim h / 2\pi$$

ブラックホールの時間スケール

$$t_{\text{BH}} \sim 2r_g / c \sim 4GM / c^3$$

$$\text{エネルギーと温度の関係} \quad E \sim kT$$

$$T \sim \frac{\Delta E}{k} \sim \frac{h}{k\Delta t} \sim \frac{\hbar c^3}{4kGM}$$

厳密解と 2π のファクターを除き一致

ブラックホールの蒸発

- 黒体放射によってブラックホールのエネルギーが失われた結果、質量が減少する。
- 最終的には放射によってブラックホールはその全質量を失い蒸発する
- ただしものすごい時間がかかる
 - 太陽質量のブラックホールが蒸発するには宇宙年齢よりはるかに長い時間がかかる
 - 検出されればノーベル賞級の大発見だが、、

まとめ

- BHの存在については、さまざまな観測結果の積み上げから、間違いない
- ただし、その究極の証明(黒い穴の検出)はまだ。
- BH近傍の詳細な観測は今後10年の電波天文学の最重要課題の一つ